



岸田首相が来県

再生可能エネルギーの導入拡大と温室効果ガス削減で世界的に注目を集めるパワー・ツー・ガス(P2G)システムを、岸田文雄首相が視察しました。P2GシステムについてはP16をご覧ください。



上空から見た南部IC(左上)増穂PAと直結する道の駅富士川(右上)
南部町役場と近くを通る中部横断自動車道(左下)「バイ・ふじのくに」キャンペーンとして静岡伊勢丹で南アルプス市産サクランボを販売(右下)

祝 全線開通1周年 中部横断自動車道 山梨〜静岡間

山梨〜静岡間の全線開通から1年。沿線の峡南地域では県外からの来訪者数が増加しています。また、沿線の周辺では企業の立地や事業拡大などが進んでいます。

県では、隣接県と南北方向の大動脈が繋がったインパクトを最大限に生かし、本県経済の活性化に取り組んでいきます。

―着工から24年、待望の開通

山梨〜静岡間の着工から24年。令和3年8月に下部温泉早川IC〜南部ICが開通し、長年待ち望んでいた道路が完成しました。

全線開通に至るまでには、さまざまな困難がありました。増穂以南の着工のめどが立たなかった当時、県は、国と費用を負担して整備する「新直轄方式」を要望しました。整備の実現と引き換えに費用負担を受け入れることにしたのです。その後、国が同方式による整備を決定したことで、増穂以南の区間は完成に向けて大きく動き出しました。

しかし、六郷IC〜富沢IC間はトンネル部分が多く、地盤が軟弱であることから工事は難航し、全線開通時期が3回にわたり延期されました。



山梨・静岡両県の関係者が開通を祝った

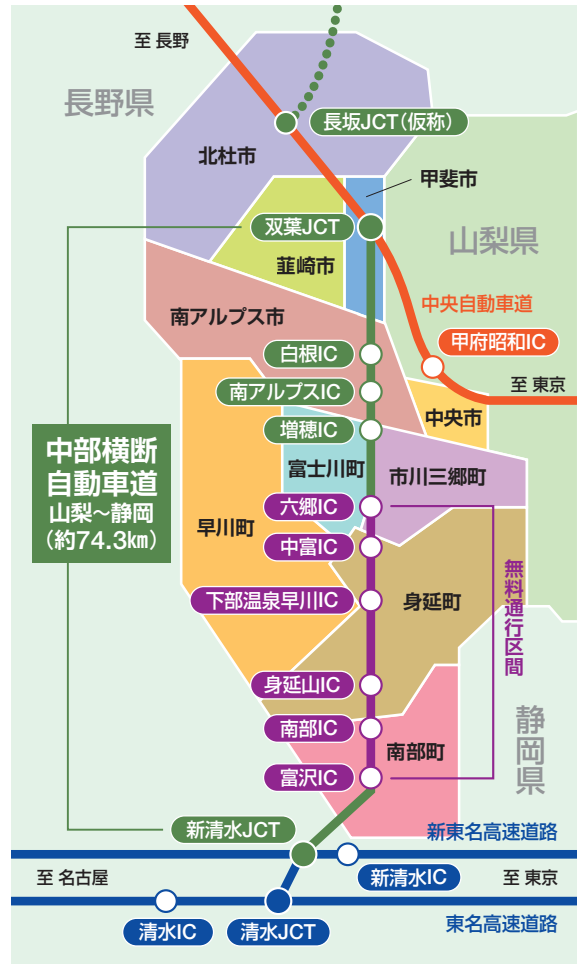
工期延長に伴い工事費は増大し、県負担額も大きく膨れ上がりました。長崎知事が就任以降、この負担額を削減するため国に要望を重ねた結果、地方交付税措置の大幅拡充が認められ、約164億円の県負担額は約1億円にまで削減されることとなりました。

全線開通から1年。沿線の周辺では、企業の新たな進出や事業拡大などが進んでおり、地域の雇用創出や地価上昇などの効果が表れています。

ビッグデータの解析結果によると、県外から峡南地域の主要観光地への来訪者数は、静岡県と東京都、神奈川県のおよそ60%以上増と大きく伸びています。

中部横断自動車道を利用した方が実施したアンケートでは、移動時間の短縮や快適な走行などの点で、多くの方が開通の効果を実感しており、遠方への出かけやすさや滞在時

開通から1年で
企業立地と来訪者が大幅増

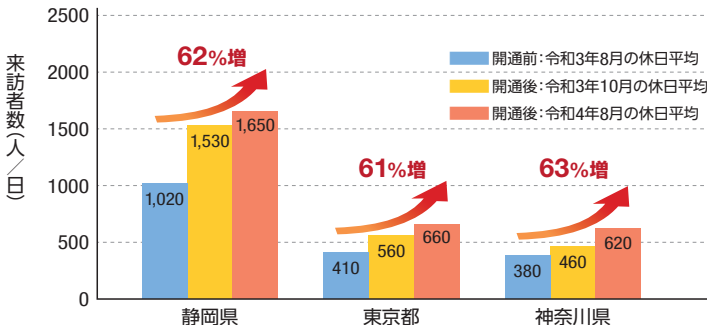


峡南地域の町や道の駅とともに立ち上げた協議会で地域活性化に取り組んでいる

間の増加につながっていることが分かってきました。

県では全線開通の効果を一過性のものとしないうよう、沿線の町や関係者と連携し、地域活性化の取り組みを進めています。

峡南地域への居住地別来訪者数

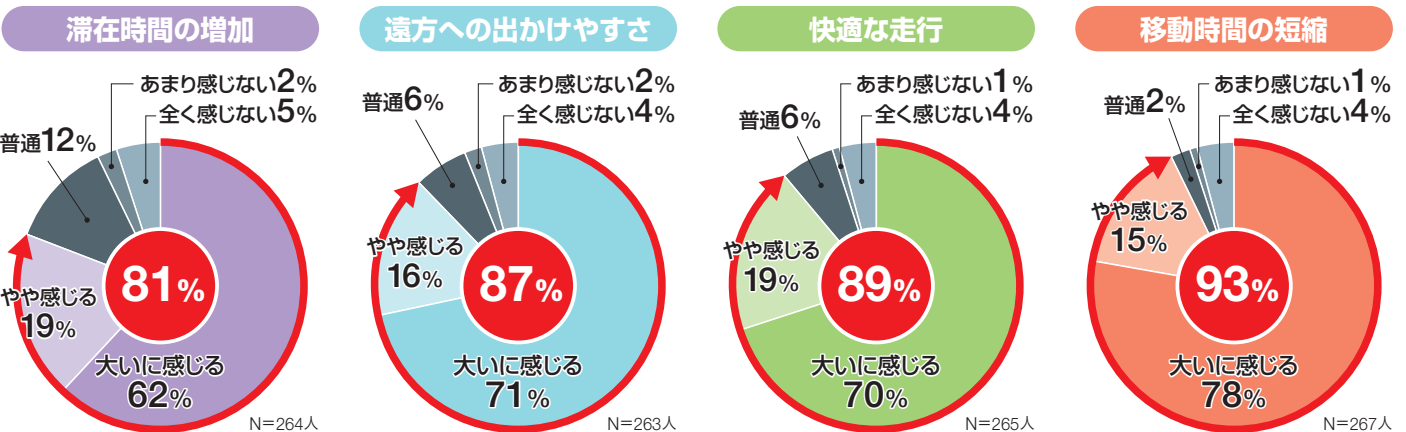


出所: DS.INSIGHT (ヤフーデータソリューションの行動ビッグデータ) 峡南地域内の主要観光地が立地するメッシュを対象に来訪者(ビッグデータのサンプル数)を集計

沿線周辺への企業立地

所在地	業種等	開設時期
南アルプス市	洗口液工場	令和3年操業開始
南アルプス市	化粧品工場	令和6年操業開始予定
南アルプス市	倉庫型量販店	令和6年操業開始予定
中央市	物流センター	令和2年操業開始
中央市	物流センター	令和4年操業開始予定
身延町	合板工場	令和元年操業開始
身延町	除菌水生成工場	令和2年操業開始
南部町	物流センター	令和3年操業開始

利用者アンケート



道の駅富士川、道の駅みのぶ、道の駅なんぶ、道の駅とみぞわ及び久遠寺にて実施した県のアンケート調査(令和3年10月17日)

「広域道路網が拡大」

中部横断自動車道にはさまざまな役割が期待されます。

その一つとして、富士山を中心とする周遊ルートの形成があります。中部横断自動車道と中央自動車道、東富士五湖道路、東名高速道路がつながり、あらゆる地域の方が山梨を訪れ県内各地を巡りやすくなることから、観光消費など県内経済の活性化が見込まれます。特に無料区間がある峡南地域は旅の途中でも立ち寄りやすく、そこから他の地域へ足を伸ばすことも期待できます。

また、中部横断自動車道には広域迂回路としての役割もあります。過去には自然災害により県外との交通が寸断されることがありましたが、隣県と結ばれる路線を複数確保することで、1つの路線が通行できなくなっても他の路線を迂回することができ、交通が途絶えるリスクを減らすことにつながります。

「甲斐国」から「開の国」へ

静岡県と高速道路で直結したことで、清水港や富士山静岡空港までの所要時間が短くなり、国内外とのアクセスが飛躍的に向上しました。山梨県は「甲斐国」から海と空に開か

れた「開の国」へと進化を遂げたのです。人や物の流れが活発化し、それによってもたらされる経済効果は今後大きく表われてくるでしょう。

静岡県とは、開通を契機にこれまで以上に連携を深めています。山梨・静岡それぞれの旬の農畜水産物を互いに購入する取り組み「バイ・ふじのくに」や、生産額全国首位である静岡県の医療機器産業と本県の機械電子産業を結び医療機器産業の一大集積地に成長させる「メディカル・デバイス・コリドー構想」の取り組みのほか、水素・燃料電池分野でも連携が進んでいます。

中部横断自動車道はさまざまな可能性を秘めています。今後、長坂〜八千穂間が整備されると、長野県との新たなルートが開け、さらに大きな効果が期待できることから、県では、国に対して早期に整備するよう強く働きかけていきます。



国土交通省に長坂〜八千穂間早期整備の要望書を提出する長崎知事(令和4年7月)



INTERVIEW_1

峡南地域の未来を開く
活気に満ちた町づくり



南部町 町長
佐野 和広 さん

中部横断自動車道の開通で、人の流れが生まれ、町が明るくなりました。「道の駅なんぶ」は、静岡のみならず中京圏から訪れる人が増え盛況です。これまで開通を視野に町づくりを進めてきたことが実を結び、すでに企業誘致が実現し、雇用の創出などにつながっています。

今後は静岡からの移住促進を図ります。交通の利便性が向上したので、静岡の広範囲が通勤圏となりました。南部町は土地が安く自然に恵まれています。診療所は2カ所あり、万が一の際には県立中央病院でも静岡県立総合病院でも1時間以内で行けるようになりました。このような本町の優位性や、これまで力を入れてきた子育て・教育施策などを現役世代に訴えていきます。

今年6月に完成したアルカディア多目的広場は、富沢ICから近くアクセスしやすいので、静岡県の方も多く利用されており好評をいただいています。

これからも美しい自然環境と南部氏発祥の歴史、豊かな農産物などの地域資源を発信し、お年寄りも若い人もみんなが活気に満ちた持続可能な町をつくっていききたいと考えています。

INTERVIEW_2

山梨の玄関口として
地域の多彩な魅力を発信



道の駅富士川 代表取締役社長
居村 一彦 さん

道の駅富士川は、中部横断自動車道増穂PA（下り）と直結しており、昨年8月に静岡まで開通して以来、静岡県のナンバーの車が増えていることを実感しています。開通後の昨年9月から富士川本線料金所の交通量は平均で約1・5倍に増加していると聞いています。

道の駅富士川は、静岡方面からいくつものトンネルを通過してパッと視界が開けたところであり、山梨の南の玄関口となっています。

その中で私たちは、いかにお客さまに魅力を発信し立ち寄っていただくかを考え、さまざまな取り組みをしています。

ご好評いただいていたフルーツ王国やまなし自慢の果物や地域で育てられた旬の野菜をはじめとする、新鮮な農産物のさらなる充実を図りました。また富士川町産の原材料にこだわり、棚田米や卵、ゆずを使い、その場で焼き上げた米粉のバウムクーヘンも4月から販売を開始しました。ここを拠点として周辺地域を観光していただくためのレンタサイクルも用意しています。

道の駅富士川は、今後も訪れるお客さまに、よ一層山梨の魅力を発信してまいります。

INTERVIEW_3

山梨の発展につながる
物流の一大拠点を目指す



富岳通運株式会社 総務課課長
小原 春人 さん

中部横断自動車道が開通したことにより配送の迅速化が図られ、弊社のみならず県内全体で物流関係の仕事が増えています。

特に万が一の流通停滞に備えた、在庫型サプライチェーンを求める企業が増え、倉庫の需要が今まで以上に高まる傾向にあります。

山梨は首都圏に近く、広い用地があり、道路の整備によって近隣都県とのアクセスが向上していることから、注目される地域となっています。

輸出入の面では、清水港や名古屋港へ短時間で移動でき、将来長坂以北が開通すれば新潟港へのアクセスも可能となり、さらに利便性が上がると考えます。このような状況から判断すると、山梨が物流のハブ県となり大きく発展していく可能性が高いと考えます。

弊社では、防災機能を併せ持った物流拠点「山梨中央ロジパーク」が稼働します。物流の強靱化を図るとともに、地域防災にも貢献できればと思います。物の流れを整えれば企業が集まり、雇いが生まれ人が集まる。企業や人が集まれば物流がさらに増える。道路網が整備されたこのチャンスを生かし、今後も取り組みを進めてまいります。



リニア開業に向けて、県内ではさまざまな先端技術の実証実験が行われている

先端技術で未来を創る テストベッドの聖地へ

実際の運用環境に近い状態で先端技術の実証実験を行う場のことを「テストベッド」と呼びます。県では、地域特性を生かした実証実験が盛んに行われる環境づくりを進め、人材の交流を生み出し、イノベーション（技術革新）が創発される「テストベッドの聖地」を目指しています。

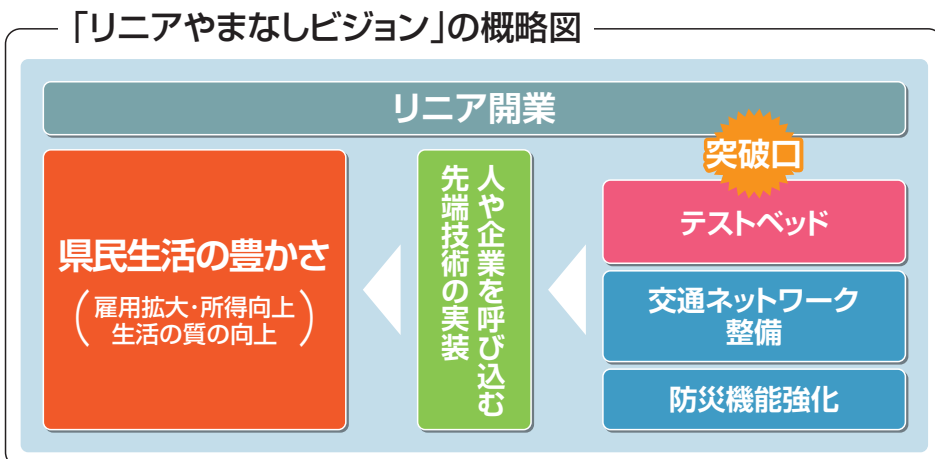
「東京から25分の時代」に

リニア中央新幹線が開通すると、山梨は東京と25分、名古屋と45分で結ばれることとなります。リニア開業は国内外との飛躍的なアクセスの向上をもたらし、本県にとって大きな転換点となるのは間違いありません。

この好機を最大限に生かすため、県では令和2年3月に「リニアやまなしビジョン」を策定し、テストベッドの提供や交通ネットワークの整備、防災機能の強化などに取り組みんでいます。こうした取り組みが生む人材の交流や、先端技術の社会実装で、県内経済を活性化させ、県民生活の豊かさにつなげていきます。

「なぜテストベッドの聖地なのか」

中でも、県内経済活性化の突破口



となるのが、先端技術の研究開発により社会の課題解決に取り組みスタートアップ企業などへのテストベッドの提供です。

革新的な技術やビジネスモデルによる実証実験は、国内外の優秀な研究者をはじめ、地域に多くの人や企業を呼び込むとともに、実験の成果が県民生活に生かされることが期待されます。

近年、実証実験の場を地方に求める動きが見られます。本県は豊かな自然環境に恵まれたゆとりある空間、中山間地域をはじめとする多彩な実証フィールドなど、テストベッドに適した高いポテンシャルを持っています。また、大都市圏へ容易に行き来できることから、立地の強みを最大限に生かすことができます。

そこで県では、本県の強みであるクリーンエネルギー分野をはじめ、生活の質の向上や地域課題の解決に資するライフサイエンス・次世代モビリティ（乗り物）・スマート農業など、地域特性を生かした実証実験が盛んに行われる環境づくりを進めています。

スタートアップ企業などによる実証実験で次々と新しいチャレンジが生まれています。イノベーションが創発されるテストベッドの聖地とし

本県の地域特性を生かしたテストベッド分野



て、全国、そして世界に認知されるよう取り組んでいきます。

実証実験サポート事業に 全国から124の企業が応募

多くの実証実験など呼び込む施策の一つとして、県は「TRY! YAMANASHI! 実証実験サポート事業」を実施しています。この事業では、県内で実証実験を行う企業

に対し、実証フィールドの提供や関係機関との連携、技術面のサポート、最大750万円の補助金などを支援しています。

令和3年7月から現在までに、全国124の企業から応募がありました。このうち、過疎地の買い物をサポートするドローン物流や高齢者の歩行を補助する次世代パーソナルモビリティなど、地域や社会の課題解決に取り組む21の企業が採択され県内各地で実証実験が行われています。

本県での実証実験を契機に、同じ地域課題を抱える全国の自治体から、視察依頼や問い合わせが多く寄せられています。また、本県への拠点の設置や、二拠点居住・移住につながる

などの成果も表れています。

企業からは「病院での実証がこれほど短期間に実現できるとは思わなかった」「フィールドとなる市町村との連携がスムーズに進み驚いた」「これまで出会えなかった新たな人材との交流が生まれ刺激になった」など、事業に対し好評をいただいています。

新たな価値創造で世界に貢献

実証実験サポート事業の他にも、再生可能エネルギーの電力で水素を製造するP2Gシステムを用い、余剰電力を水素に変換し、電力ロスを減らす実証実験や、走行中の電気自動車にワイヤレスで給電を行う実証実験、「空中を駆けるバイク」の社会実装に向けた研究開発などを支援しています。

こうした未来の技術を支援することで、世界に先駆けて新たな価値を創造する近未来の窓口として、世界に貢献していきます。

また、実証実験を県内各地で展開することで、テストベッドの聖地としての地位を早期に確立し、有能な人材の交流や関連産業・研究開発機能の集積、雇用拡大、県民所得の向上などにつなげ「県民一人ひとりが豊かさを実感できる山梨」の実現を目指していきます。



県の強みや地域特性を生かした実証実験が県内各地で行われている

TRY! YAMANASHI! 実証実験サポート事業のHPはこちら



物流・生活の課題を解決《ドローン》

過疎地域での物流インフラの維持と脱炭素社会の実現に向け、小菅村でドローン配送を含む新スマート物流の実証実験を行っている株式会社エアロネクスト（東京都渋谷区）。同社代表取締役CEOの田路圭輔さんに、山梨で実証実験を始めた経緯や今後の展望についてお話を伺いました。

「当たり前前に物が届く社会」を



株式会社エアロネクスト
代表取締役CEO
田路 圭輔 さん

さらに過疎化が進むと「当たり前前に物が届く」という社会が失われる可能性があります。そうなる前に、無人で物が運べるドローンによるインフラを作る必要があるのです。

縁あって小菅村を訪問した際、過疎化が進んだ村の抱える物流・交通の課題や東京からのアクセスの良さ、そして何より村の自然豊かな環境に一目ぼれし、この地で実証実験を行いたいと考えました。

小菅村とドローン配送の実現や地域活性化に向けた連携協定を締結し、子会社を村内に設立。村内の空き家や物流倉庫兼拠点を設置し、ドローン配送と買い物代行の実証実験を開始しました。

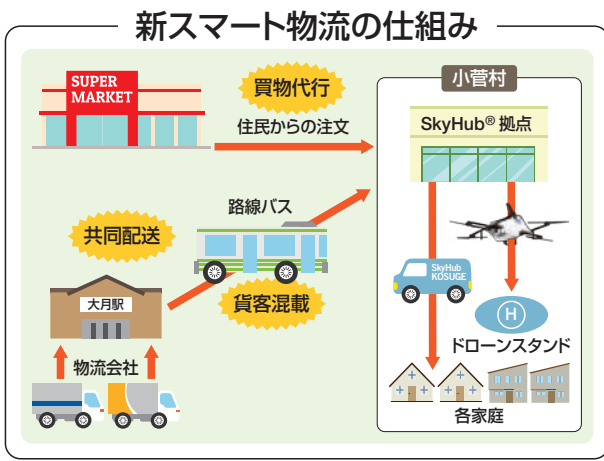
日本の過疎地域では商店が徐々に減少し、遠くの地域まで買い物に行く必要があります。必然的に、宅配などの物流の重要性は高まりますが、トラックで過疎地に配送するのはコストがかかり、環境の面でも良くありません。



ドローンスタンド（離発着場）は、村内に11カ所設置されている（令和4年8月末現在）

小菅村から全国へ展開

「SkyHub[®]ドローンデポ小菅村」を拠点に、村民の皆さまからスマートフォンアプリや電話などで注文を受け、ドローンで配送する「SkyHub[®]ストア」と車で個人宅まで配送する買物代行サービス「SkyHub[®]デリバリー」は、約半年の実証期間を経て令和3年11月から社会実装しています。私たちが小菅村で検証、確立してきた、既存の輸送手段とドローンを組み合わせた新たな物流インフラ「新スマート物流」は全国展開も加速しています。



今後は物流会社と連携した共同配送、地域のバス会社との協力による貨



「ドローン利用はすでに日常生活の一部です。とても助かっています」と笑顔の利用者

客混載を試験的に開始する予定です。実証実験サポート事業の採択を受け、地元企業をご紹介いただくなどさまざまな支援を受けています。特に、県がサポートする実証実験として広報していただいたことで、全国的な知名度を上げることができました。また、村民の方からも「免許を返納したからドローンが届けてくれて助かります」「人がたくさん来て村が明るくなりました」などの声をいただき、大変うれしく思っています。事業はすでに全国から注目され、各地から多くの方が視察に訪れています。県民の皆さまもぜひ見に来てください。小菅村の豊かな自然の中を飛ぶドローンの姿と、村民の皆さまの笑顔から、ドローン物流が創造する未来を感じ取っていただけたと思います。



AssistMotion株式会社
代表取締役 工学博士
橋本 稔さん

アシストモーション
AssistMotion株式会社(長野県上田市)は、高齢者などの日常生活の動作を支援するため、軽量で安価な歩行補助ロボットの開発を行っています。同社が県内の介護施設で取り組む実証実験について、代表取締役の橋本稔さんにお話を伺いました。

「母の介護がきっかけで開発着手

私たちは、加齢や事故、病気などで歩行が難しくなった人のために歩行を補助するロボットを長年開発してきました。弊社を含め、現在多くの企業が歩行補助ロボットを開発しています。

しかし、現在実用化されている製品は、主に歩行訓練用としてリハビリ施設などで使われるものであり、日常生活の場で使える「自立支援用のロボット」の実用化は進んでいないのが現状です。

私の母は足が不自由で日常生活に苦勞していました。地方の公共交通が減少していく中、買い物などに自分の足で歩いていくことが必要に



ロボットのサポートを受け自分の足で歩く

自立支援で使用するロボットには、転倒予防などの安全対策や高齢者が普段生活する空間での検証が必須と

「高齢者も実験に参加

なってきましたし、何より高齢者の生きがいになります。そこで私たちは、衣服感覚で着用できるほど軽量で、かつ安価な歩行補助ロボットの開発と普及を目指し実証実験サポート事業に応募しました。

「高齢者に歩く喜びを提供 《歩行補助ロボット》

なるため、リハビリ用のものに比べ開発や検証のハードルが高くなります。加えて、ロボットを動かす制御技術などソフトウェアについての課題も多くあります。

事業に採択していただき、県内の介護施設での検証や資金面など、県からさまざまなサポートを受けたことで、本格的な開発と実証実験を始める段階まで来ることができました。

自立支援用の歩行補助ロボットが実現すれば、もう一度自分の足で歩きたいという思いに応えることができ

きます。買い物に行ったり家事をしたり、また、階段の上り下りや起立、着座も楽になります。

実証実験は県内のご高齢の方の協力を得ながら進めていきます。支援してくださっている県や県民の皆さまのた

介護施設での検証や資金面など、県からさまざまなサポートを受けたことで、本格的な開発と実証実験を始める段階まで来ることができました。

自立支援用の歩行補助ロボットが実現すれば、もう一度自分の足で歩きたいという思いに応えることができ

めにも1日も早く実用化し、山梨県を中心に全国へ普及させて、高齢者をはじめ身体動作に不自由を感じている方に使っていただきたいと考えています。ここ山梨から、誰もが自分の足で歩けるような社会の実現を目指して開発を進めていきます。

「世界が注目する「空中を駆けるバイク」

令和3年10月に鮮烈なデビューを果たした「空中を駆けるバイク」
エックストゥーライクモ
『XTURISMO』。県は、開発者である株式会社A.L.I.
テクノロジーズ
Technologies(東京都港区)と、移動手段や災害時など幅広い分野での活用が期待されるエアモビリティ(空の乗り物)の社会実装と発展に向けて共同で取り組む協定を締結しました。

現在、県のサポートを受けながら、安全に走行できるルール整備や空の道の構築、管制システムなど、実用化に向けた実証実験が県内で行われています。



県内で行われている実証実験

未来の交通システムとして期待されるXTURISMOは国内外から注目を集め、海外からの視察要望や購入希望も寄せられているそうです。県では今後も未来を創る先端技術の実証実験を全力で支援していきます。



それぞれの作品づくりに真剣に取り組む子どもたち(昭和町立西条小学校)

山梨の子どものいいところ

(全国学力・学習状況調査 質問紙調査の結果から)

自分には、よいところがあると思える



人が困っているときは、進んで助けている



人の役に立つ人間になりたい



など

文部科学省が実施した全国調査の結果などから、山梨県は高い自己肯定感や人の役に立ちたいと思う気持ちを持つ子どもの割合が全国トップクラスであることがわかりました。予測が難しく変化の激しいこれからの社会において、これらの資質は、

子どもの将来や人生にとっても重要なものです。県は、25人学級をはじめとした少人数教育で、山梨の子どもが持つトツプクラスの資質をさらに伸ばすとともに、学校を、それぞれの子どもが個性や能力を最大限発揮し、夢の実現に向けて準備をする場所とするため、全力で取り組んでいます。

「山梨の子どもの長所を伸ばす

目を輝かせて工作に取り組む子どもたち。昭和町立西条小学校2年4組の教室では、児童が先生と楽しそうに学んでいました。県は今年度、25人学級を小学2年生に拡大しました。現在、25人学級の実施効果を検証するとともに、3年生以降への少人数学級導入を検討しています。

25人学級を2年生に拡大 子どもの個性や将来の可能性を伸ばす

2年目を迎えた25人学級

県はこれまで、全ての学年で国の基準よりも少ない人数とする県独自の学級編制基準を定めるなどとして、少人数教育を推進してきました。

昨年度には、一人一人の子どもに対応したきめ細かく質の高い教育を

個性や能力を伸ばし豊かな人間性と可能性を育みたい



昭和町立西条小学校
2学年担任

保坂 直行さん

担任としては、困ったときに声を掛け合ったり、掃除や係の仕事を協力しながら進めたりする優しい姿を見ることが増えていて、うれしく感じています。25人学級は一人一人が活躍できる機会が多く、また互いの良さに自然に気づくことができるなど、子どもの満足感や達成感、やる気につながっています。

多様な価値観との出会いという点では多人数が良いという考え方もありますが、少ないからこそ関係を深



一人一人に寄り添う時間が増えたという

実現するため、全国に先駆けて25人学級を公立小学校の1年生へ導入しました。今年度はこれを小学校2年生にも拡大し、現在は38校がこの制度を活用しています。

導入効果があった！ 届いた「現場からの声」

められる時間がとれ、いろいろな考え方に触れて気づきを得ることができると25人学級は、私はプラスだと捉えています。

また、人数が減ったことで日々の事務処理の時間が短くなり、授業の準備や連絡帳の返事を書く時間、子どもと過ごす時間が増えるなど、時間をかけたいと思うことに十分使えるようになりました。

8月下旬に開催された少人数教育推進検討委員会では、昨年度25人学級が導入された学校に実施した調査の結果が報告されました。「一人一人の学習状況が把握でき、きめ細かい指導ができた」「発言の機会や話し合いの時間を増やすことができた」「児童同士で会話する機会が増え、互い

子どもは起きている時間のほとんどを学校で過ごします。家庭のように安心して居場所であり、自己肯定感を養える25人学級は、子どもが将来安心して広い世界に飛び出していくための成長につながるものだと思います。

一人一人に寄り添って もらえていると感じます



昭和町立西条小学校
2学年PTA学年委員長

谷口 真季さん

25人学級は、子どもが自分に自信を持てるなど、自己肯定感につながっていると思います。うちの子も学校が楽しいと言って、毎日先生やお友達の話をしてくれます。それだ

の良さを認め合えるようになった」などの声が多く集まり、25人学級導入の効果を実感している様子が見え、うかがえました。

検討委員会では今後も議論を重ね、小学3年生以降への導入を検討し、今年中に方向性をまとめることとしています。

けふれあいの時間が長いのだと感じます。授業参観では、先生が一人一人の様子をよく見ながら授業を進めてくださっていて、みんなが「できた！」「わかった！」と喜んでる姿を見ることができました。

また、これまで大きな不安を感じることなく学校に通えているのは、先生が保護者にきめ細かく対応してくださることも大きいです。不安に感じることを連絡帳に書くこと丁寧なお返事をくださいますし、学級だよりの内容も充実していて、子どもの学校生活の様子がよくわかります。私は県外出身で知り合いがいなかったのが当初は不安でしたが、保護者同士のつながりも作りやすく安心できました。

学年が上がると、これまでとは違った悩みや不安が出てくると思うので、3年生以降にも少人数学級を導入していただけたらうれしいです。

世界初、電界結合方式によるEVワイヤレス 走行中給電における本格的な実証実験の 事業発表及び協定締結式



都内で協定締結式を行い、実証実験の開始を発表した

EV普及のカギとなるワイヤレス給電 世界初の実証実験始まる

県は脱炭素社会を見据えた新しい産業を山梨の地から創出することを目指し、先端技術によるさまざまな実証実験を支援しています。その一環として、電気自動車（EV）の普及のカギとなる充電問題などの解決を目指す実証実験が県内で始まります。

企業や行政などが連携して 走行中の給電に挑戦

実験開始に当たり、今年5月、東京都内において協定締結式と事業内容の発表が行われ多くのメディアが集まりました。

山梨県、甲斐市、学校法人日本航空学園（同市）、富士山の銘水株式会社（富士吉田市）、富士ウエーブ株式会社（同市）の5者が連携して、世界初となる「電界結合方式によるEVワイヤレス走行中給電の本格的な実証実験」を開始します。

電線を介さず、電磁誘導や電波を利用して離れた場所に電力を伝える技術をワイヤレス電力伝送技術と呼びます。EVワイヤレス走行中給電はこれを応用し、走行中のEVに給電を行うというものです。

日本航空学園の敷地内に1周約500mのテストコースをつくり、走行中のEVに、電界結合方式によ



豊橋技術科学大学での実験の様子

りワイヤレスで給電する本格的な実証実験を行います。

この実験では主に①道路上の異物などのリスクに対する安全性②給電効率、車両の軽量化といった省エネ性③道路などのインフラ等のコスト面の3項目を検証していきます。

県はこの実証実験の円滑な実施に向け、県内外の関係機関との連携体制を構築していくとともに、社会実装における規制緩和などの制度的課題の解決に向けた支援を行います。

「電界結合方式」は何が優れているのか

昨年11月、県は豊橋技術科学大学とワイヤレス電力伝送技術に係る連携推進協定を締結しました。同大学の大平孝名誉教授に、電界結合方式によるEVワイヤレス走行中給電の仕組みなどについてお話を伺いました。

EV普及のカギとなる 脱炭素社会の新技术

EVは走行中に二酸化炭素を一切排出しないため、脱炭素社会の実現に役立ちます。しかし、充電時間の長さや車両価格の高さといった理由から、政府目標に対し思うように普及が進んでいません。この課題を解

決できるのが走行中に行うワイヤレス給電です。

これまでは道路に埋め込んだコイルと車体底面に取り付けたコイルの間で電力を送る「磁界結合方式」による実験が盛んに行われてきました。この方式は止まっているものには使えやすく、スマートフォンの充電器などですでに製品化されている一方で、動くものには使いづらいというデメリットがありました。

今回私たちが山梨県で行う「電界結合方式」によるEV走行中ワイヤレス給電の本格的な実証実験は、高性能な半導体が見つかったことにより実施できるようになりました。電界結合方式では、道路に埋め込んだ金属平板と車体底面に取り付けた金

属平板の間で電力を送ります。位置の多少のずれや動きに強いという特徴があり、また電磁波の漏えいが少ないため安全で、車載機器のコストも磁界結合方式に比べ10分の1に抑えられます。

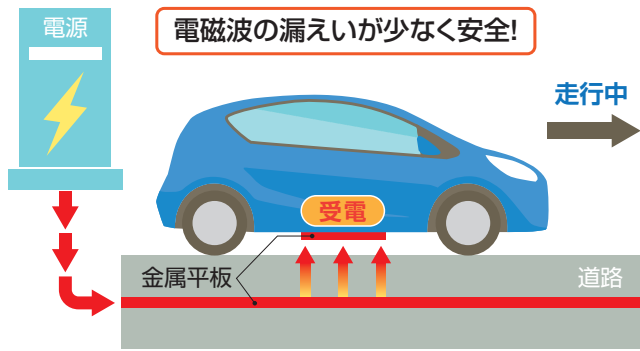
充電を気にせず 長時間走行が可能

EVは、急速充電器を使っても充電が完了するまでに30〜40分程度かかりません。走行中にワイヤレス給電ができれば、長い充電時間を気にせずに長距離を運転することができま

す。また、EVは車両価格の約半分にバッテリーが占めるといわれています。長距離運転をすることの多い高速道路でワイヤレス給電を行えば、市街地を走るために必要な量さえ充電しておけばよく、車載のバッテリー容量も最小限で済み、車両価格が安くなります。

EVに限らず、ワイヤレス電力伝送技術にはさまざまな可能性がります。家電や住宅、ロボット、医療機器分野、さらには富士山登山鉄道構想などへの応用も視野に入れています。これから山梨県で実証実験を重ね、こうした技術の早期実用化を目指します。

電界結合方式ワイヤレス給電の仕組み

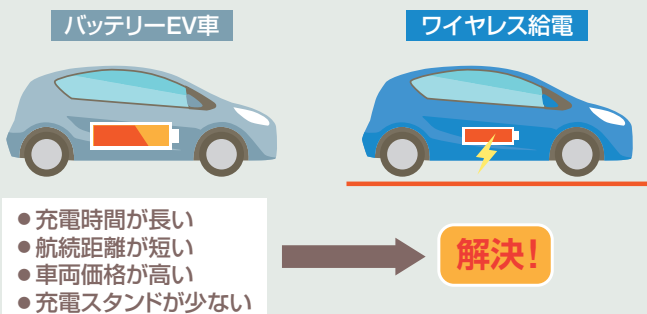


豊橋技術科学大学
名誉教授
大平 孝さん



ワイヤレス走行中給電の未来図

ワイヤレス走行中給電が バッテリーEV車の抱える課題を解決



◆ 信玄公の魂よみがえる3日間



蘇る戦国歴史絵巻

第49回

世界一の武者行列

信玄公祭り

SHINGEN-KO FESTIVAL
THE LARGEST SAMURAI PARADE IN THE WORLD



◆ 3年半ぶりに盛大に開催します！
10月28日(金)〜30日(日)

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、平成31年4月の開催以来、延期を余儀なくされてきた信玄公祭り。昨年生誕500年を迎えた信玄公の功績を再認識し、県民総参加で祝福する祭典を、約3年半ぶりとなるこの秋に開催することとしました。十分な感染対策を講じながら、みんなで盛大にお祝いしましょう。

◆ 甲州軍団を率いるキャスト

舞鶴城公園や甲府駅南口周辺をメイン舞台に、世界一の武者行列を披露する「甲州軍団出陣」。信玄公役として武者たちを率いるのは、芸人の後藤淳平さんです。また信玄公を支えた軍師・山本勘助役は、俳優で演出家・脚本家の三谷昌登さんが務めます。

お二人は、信玄公生誕500年を記念して制作した歴史ドラマ「信茂と勝頼」にも出演しました。プライベートでも親交があるという両キャストによる息の合った掛け合いで、祭りを大いに盛り上げてくれることでしょう。

「信茂と勝頼」は県の公式YouTubeチャンネル「山梨チャンネル」で公開中！
ぜひご覧ください



出演者からのメッセージ



【武田信玄公役】^{ごとう じゆんぺい}後藤 淳平さん

まさか自分が信玄公として参加させてもらえるなんて大変光栄です。山梨県の方々に今年の信玄公として認めてもらえるよう精一杯やらさせていただきます。共に感動を分かち合いましょう！



【山本勘助役】^{み たに まさと}三谷 昌登さん

全力でお屋形様を支え、信玄公祭りを盛り上げたいと思っております。きっと勘助さんが皆を憎き疫病から守り、山梨から全国に明るい未来をもたらしてくださることでしょう！

◆ 甲州軍団出陣スケジュール

- ◆ 10月29日(土)
 - ◆ 戦勝祈願式 午後1時20分〜【武田神社】
 - ◆ 軍団集結 午後3時10分〜【舞鶴城公園】
 - ◆ 出陣式 午後4時20分〜【舞鶴城公園】
 - ◆ 軍団出陣 午後4時50分〜
 - ◆ 帰陣式 午後7時〜【舞鶴城公園】

詳細は信玄公祭り実行委員会ホームページをご覧ください



◆ 新型コロナウイルス 感染防止対策

皆さんが安心してお祭りを楽しめるよう、感染防止対策を実施します。

- ① 身体的距離を確保するため
平和通りの観覧エリアを拡大
- ② 有料観覧ゾーン入口で検温・手指消毒を実施
- ③ 会場各所へ検温装置・消毒液を設置
- ④ 音響を活用し大声に頼らない演出を実施

ご来場の際は、感染拡大を防ぐため、基本的な感染防止対策の徹底にご協力ください。

- ① 不織布マスクの着用
- ② 会場各所における検温や手指消毒の実施



◆ 主なイベント内容

◆ 10月28日(金) 前夜祭イベント【舞鶴城公園】
神明の花火とのコラボ花火

◆ 10月29日(土) 祝賀パレード【ハロウィン仮装パレード】

【平和通り】

信玄公祭りの開催を祝い、祭りを盛り上げるパレード

甲州軍団出陣 ※平成24(2012)年「侍の最大集合記録」としてギネス世界(※)の武者行列 界記録™を達成

かいの国SHINGEN

MARCHE【舞鶴城公園南広場】

若者によるステージや地場産品の販売

菱丸忍軍〜秋の入軍試験〜

【県庁防災新館南側道路】

子どもから大人まで参加できるスポーツイベント

◆ 10月30日(日) 戦勝を祝う賑わい城下町

【舞鶴城公園および周辺】
ステージイベントなど

◆ 同時開催イベント

賑わい城下町【舞鶴城公園】

信玄グルメ横丁【かすがもーる】

こゝろふ女性達で

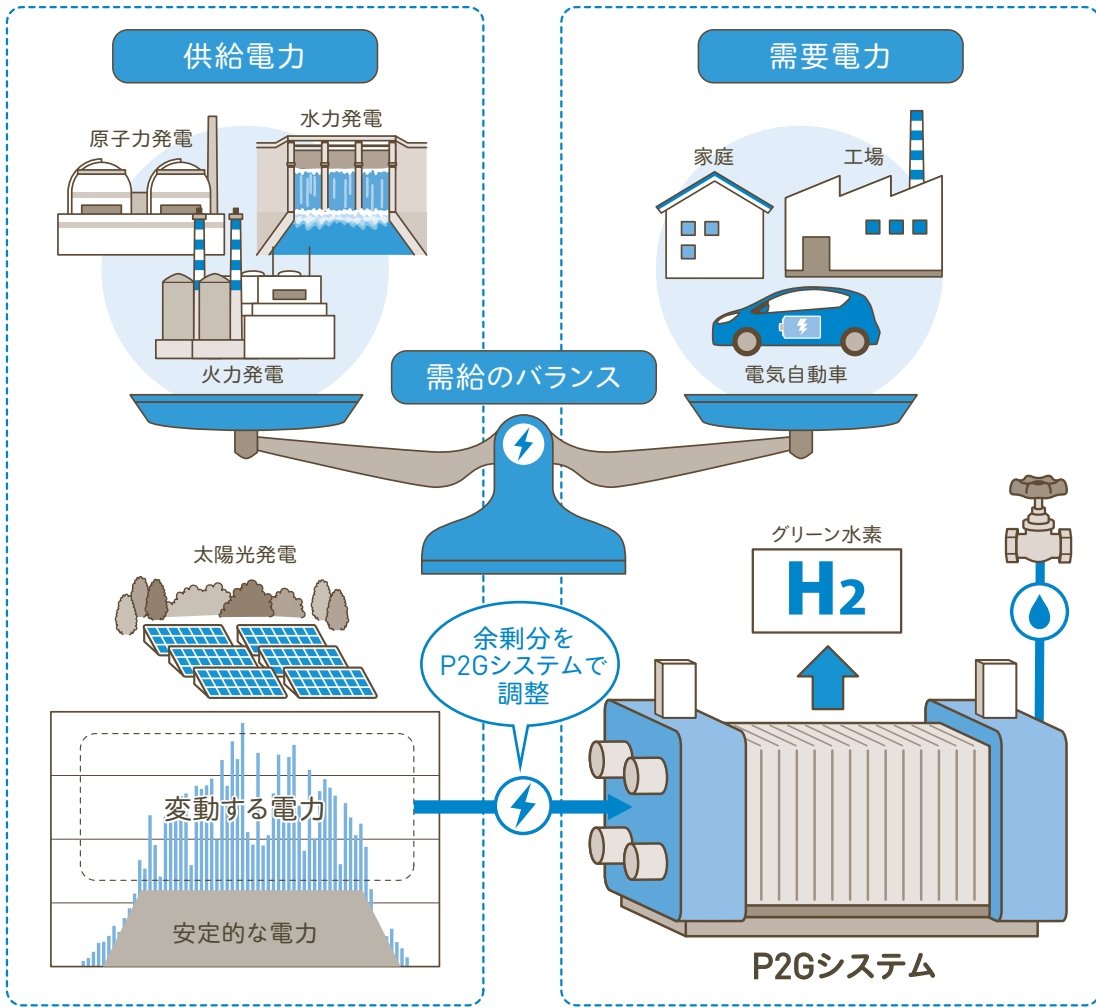
創るマルシェ(10月29日のみ)

【アinstエンジニアリングよっちゃばれ広場】

他にも信玄公祭りを盛り上げるイベントを用意しています。

詳細はこちらから





脱炭素社会実現のカギは山梨にある やまなしモデルP2Gシステムで 電力需給調整ができるらしい？

最近、電力供給ひっ迫などの電力に関するニュースをよく見かけます。実は電力を安定して供給するのはとても大変なことなんです。電気はそのまま貯めておけない性質を持っている、発電量と消費量が同時同量でないと電気の供給が正常に行えなくなり、大規模停電を引き起こします。近年普及が進む太陽光発電の発電量は、晴れの日には多くなり、曇りや雨の日は少なくなります。これまででは火力発電や水力発電などと組み合わせて発電側で調整してきましたが、太陽光

電力を需要側から調整するために、県では研究を始めたそうですね。

はい。太陽光発電で得た電力で、水を分解して水素をつくるP2Gシステムを使って実証実験を始めました。

なぜP2Gシステムを使うのですか？

天候で変わる太陽光の発電量に高速で対応でき、つくった水素もエネルギーとして活用できるので、二酸化炭素(CO2)を削減できるんです。

太陽光で発電した電力を最大限使えるようになるというですね。

そうですね。P2Gシステムで環境に優しい社会づくりに貢献していきたいです。

わたしたちがレポートを作成しました！

山梨大学医学部看護学科 2年 竜澤 舞帆さん
山梨大学医学部医学科 2年 久保田 翔夢さん

P2Gシステムの社会への導入が加速し、将来的には医療現場でも有効活用されることを期待しています。

自然災害などに備えて、グリーン水素を役立てる仕組みも早くできれば安心ですね。

「やまなしモデルP2Gシステム」は世界に期待される先端技術です。P2Gシステムで環境に優しい社会を目指します。



私が説明させていただきました！

CHECK!



電気課 新エネルギーシステム推進室

主査 竹田 明浩さん

P2Gシステムは水の電気分解から水素を製造する技術であり、脱炭素社会の実現に向け、世界的に注目されています。「やまなしモデルP2Gシステム」は小型でシステム構成がシンプルなため、大量生産による低価格化や工場などへの導入が期待されます。やまなしモデルP2Gシステムで水素エネルギー社会の構築を目指します。

「グリーン水素」は究極のクリーンエネルギー

使用時にCO₂を出さないことから水素は新たなエネルギーとして注目されています。その中でも再生可能エネルギー由来の電力で水を電気分解して生産される「グリーン水素」は、製造過程でもCO₂を一切出さないため、究極のクリーンエネルギーといわれています。

発電などの再生可能エネルギー（再エネ）が増えるにつれて発電量の変動が大きくなったため、発電側だけでは対応しきれなくなり、消費側でも調整しようとする動きがでてきました。

そこで山梨県は、太陽光発電で得た電力で水を電気分解しグリーン水素をつくる「P2Gシステム」を使い、消費側での調整に挑戦し始めました。発電量が消費量を上回っているときは余った電力で水素を製造し、発電量が消費量より少ないときには水素の製造をやめ、電力の需要と供給のバランスを調整するそうです。

山梨県のP2Gシステムは出力増減の指令への対応が早い「固体高分子形」というもので、天候ですぐに変わる太陽光の発電量に高速で対応できるため、電力の安定化に役立つことが期待されています。P2Gシステムを電力需給調整に使うというのは世界初なんです！

天候に左右される太陽光は電力の需要と供給のバランスを乱すので、発電量を増やせないことが課題でした。P2Gシステムで調整することができるようになれば電力が安定し、太陽光発電の増加につながるため、再エネの主力電源化に一步近づきそうです。また、災害で遠方からの電力供給が途絶えても地域内の太陽光発電で電力を賄うことができ、防災機能の向上も見込めるそうです。さらに水素は燃えるときにCO₂を出さないため、P2Gシステムで作った水素を化石燃料の代わりとして使えば、CO₂が削減できますね。環境に優しい水素をつくるだけでなく、太陽光発電の課題である不安定さを解消できるP2Gシステムはすごいと思います。やまなしモデルP2Gシステムを応援していきたいですね。



次へつなぐ
若き先駆者たち
[ネクスト]



子どもたちの未来に
スケートボードという希望を!

清里NBスケートパーク 代表

林 YOSUKE HAYASHI **陽介**

スケートボードカルチャーを根付かせ、地域に貢献できるパークを作りたい！

プロスノーボーダーとしてアメリカやヨーロッパのチームに所属し国内外で活躍してきた林さん。プロ引退後、3人目のお子さんの誕生を機に、自然豊かな子育て環境を求めて東京から北杜市に移住しました。

「北杜市に来てから、子どもと一緒に趣味のスケートボードをしようと思いましたが、当時県内には、きちんと管理され、天候に関係なく安全安心に楽しめるスケートボードパークがありませんでした。オリンピック競技になりスケーターは増えている一方で、環境が整っていないために安全面やマナーなどの問題が出てきています。移住してきたのも何かの縁だと思い、この地域に天候や昼夜を問わず、大人も子どもも安心して楽しめるパークを作ろうと決意しました」

林さんが注目したのは廃校となった高根清里小学校でした。小学校がなくなった地域にスケートボードカルチャーを根付かせ、若者や子育て世代を呼び込み、地域の活性化につなげたいという思いがあったといいます。

「クラウドファンディングで資金を募って資材を購入し、DIY（日曜大工）でパークを作りました。県内のスケーターをはじめ、たくさんの方の協力のおかげで無事完成させることができました」

子どもが多様な価値観に触れられる場所に

パークは昨年1月にオープン。

「本物に触れられるレベルの高さと、初心者やお子さんでも安心できる敷居の低さを持った、みんなが楽しめる空間づくりを大切にしています。大人が心から楽しんでいる姿を見せれば、そこから子どもは何かを感じ取っていきます。子どもは興味や楽しみをきっかけに学びを深めていくことが大事だと僕は思います。そしてここで遊ぶ中で、子どもが普段のコミュニケーション以外にも新しいつながりを作れたらいいなと思っています」という林さん。

今後の目標には、これからの時代を生きる子どもへの思いがありました。

「集団が得意な子もいれば、1人が落ち着く子もいます。学校が好きな子がいる一方で、既存の学校のシステムが合わず学校に行かない選択をする子もいます。ここにいる大人は、子どもの多様性や個性を尊重し寄り添うことを大事にしています。家でも学校でもない、第3の居場所として誰もが安心して遊びに来られる、そんなパークにしていきたいです」



林 陽介さん

プロスノーボーダーとしてアメリカやヨーロッパのチームに所属し国内外で活躍。プロ引退後、東京から北杜市に移住。清里NBスケートパークの運営と並行し自伐型林業にも携わっている。



未就学児、小学生向けのキッズスクールも開催



パークにはたくさんの仲間が集う



トリックを決める林さん



パーク内ではショップも運営している

INFORMATION

KIYOSATO
NB SKATEPARK

北杜市高根町清里3545-2083



ふれあい

×
やまなし
in depth

地球環境にやさしくて「複雑な味」のワインができた！ 炭素を土に埋め込む「4パーミル・イニシアチブ」の トップランナー・山梨の現場に行く

農業分野から脱炭素社会の実現を目指す「4パーミル・イニシアチブ」。
取り組みの現状をやまなし in depth からダイジェスト版でお届けします。

やまなし in depth
フルバージョンはこちらから



7月、東京・銀座で山梨県産のモモが販売されていた。買った人は「環境にいい果物だと聞いたので、農家を応援しようと思いました」と話した。

県がここ数年力を入れている施策の一つが「4パーミル・イニシアチブ」。パーミルとは1000分の1＝0.1%



7月に開催されたモモフェアの様子



ブドウ畑に立つ渋谷さん

の意味。土の中に年間4パーミル（0.4%）の炭素量を増やすことを目指す、環境に配慮した先進的な農業だ。

◆ ナチュラルワインの肝は「炭」

南アルプス市の果樹園。ここのブドウから上級のワインがつくられている。このワイナリーを営むのは「ドメーヌヒデ」の渋谷英雄さんだ。

「うちのワインは他とは違った味です」
渋谷さんのつくるワインは、世界有数の国際コンクールで銀賞を受賞するなど世界的に高い評価を受けてきた。これほどまでに高品質のワインをつくるのには秘密がある。それは「循環型農業」によって生産される「ナチュラルワイン」であるということだ。

「化学農薬や化学肥料などを使用せず、純粋に植物由来の『ボタニカル循環型農業』をしています」
それを支えているのが「炭」である。

「果樹園で切られた枝を燃焼させてきた炭とブドウの皮を混ぜて肥料にしています。その炭があるために、化学農薬などを使わずに、自分の畑でできたものだけを使って育てる循環型農業ができます。こうしてできた『ナチュラルワイン』だからこそ、独自の味をつくることができるんです」

実はこの「炭」こそが、山梨県の「4パーミル・イニシアチブ」の肝になっている。

◆ 気候変動問題の解決策

県農業技術課の長坂克彦・新技術推進監はこう語る。



県農政部の農業技術課は農家への普及を進め、販売・輸出支援課は農作物の販路開拓などを進めている。左から、塩野正和・販売輸出支援課主任、五味亜矢子・同課課長補佐、長坂克彦・農業技術課新技術推進監、國友義博・同課主幹

「枝をたき火のように燃やすとCO₂が大気中に放出されてしまいます。しかし、蒸し焼き（炭化）にすると、酸素などは大気中に放出される一方で、多くのCO₂を炭に閉じ込めることができます。それによって地球温暖化防止につながります」

「4パーミル・イニシアチブ」は、地中に貯留する炭素をわずか0.4%増やすだけで気候変動問題を解決することができるという視点に基づく活動だ。CO₂の削減には、いかに石炭火力発電を減らし、再生可能エネルギーにシ



渋谷さんのワイナリーのブドウ畑に積まれている炭

を蓄えやすい。山梨県の生産シェアは、ブドウが24%、モモが35%もある。だから4パーミル・イニシアチブを導入すると、CO2削減効果が大きいのだ。県が試行錯誤した結果、一番効果があるのが炭化させることだった。炭をつくるには「無煙炭化器」という特殊な鍋を使う。底に穴が空いている無煙炭化器に1〜2カ月乾燥させた剪定枝を入れて炭化し、畑に散布する。

「4パーミル」が生んだ副産物は…

渋谷さんは循環型農業を追求した結果4パーミル・イニシアチブを取り入れたという。実際にやってみると思わぬ副産物があつた。

「味がさらに良くなりました。ワインは複雑な味を出すことが大事です。炭を使ったことで土壌環境が良くなり味の複雑さが増したのです」

循環型の良いところは「この土地だからこそその味が出せる場所」だと語る。

「外部由来の肥料を使うと確かに収量や生育は良く、収量はおそらく1.5倍くらいになるでしょう。でも画一的な味になってしまう。また農業は環境負荷がすごく高いと感じる。それを少しでも減らしたいという思いがありました」

枝を「炭」にすることが、味と環境の両面に効果をもたらすというわけだ。山梨県は令和3年5月、4パーミル・

イニシアチブを導入した農家の作物や加工品の認証制度をつくった。認証を受ける人が徐々に増えている。

消費者には、認証ロゴマークが貼られている商品を買うことで「環境負荷を低減させている」という取り組みに参加してもらうことを狙っている。エシカル消費（社会的課題の解決を考慮した消費者が、課題解決に取り組む事業者を応援する消費活動を行うこと）を促すことで、農家は恩恵を受けるし、山梨県産の農作物のブランド化、高付加価値化にもつながる。

県販売・輸出支援課の塩野正和主任はこう話す。

「山梨県産の果実は品質がいい、ということとは多くの皆さんがご存知だと思います。さらに『環境にもいい』という新たな価値を感じてもらいたい。まだ始まったばかりですが、大都市のエシカル消費層には「山梨は4パーミル・イニシアチブに取り組んで果実をつくっている」ということを認知して、選んでもらいたい。そして、今後は日本全国の消費者に選ばれる果実になるよう、積極的にPRしていきたいと思っています」

その試みが、冒頭に紹介した東京・銀座でのモモ販売につながっている。

渋谷さんも消費者の意識の変化を感じている。

「ワインを飲む方は勉強熱心な方も多い。ワインのラベルに貼られている

認証ロゴマークを見て、『どういう意味なの？』と聞かれ、そこから環境問題の話になることもあります。ある意味では、ワインが環境問題を考える入り口にもなっています」



渋谷さんがつくったワイン。認証ロゴマークが貼られている

これからの社会はSDGs（持続可能な成長目標）といった言葉に代表されるように、持続可能性を考慮することが欠かせない。それは生産者だけでなく、私たち消費者にも地球環境を考えた消費行動が求められているということだ。4パーミル・イニシアチブの取り組みで生産された農産物などを味わいながら地球環境のことを考えてみるのもいいかもしれない。

山梨は「4パーミル効果」が大きい

なぜ山梨県は4パーミル・イニシアチブに力を入れているのか。

大きな要因の一つは、山梨県で果樹栽培が盛んなことだ。畑作に比べ、耕運（作物を植え付ける際に土を掘り返すこと）をしない果樹栽培は土に炭素



NEWS 「TGC FES YAMANASHI 2022」開催決定

国内最大級のファッションイベント「東京ガールズコレクション (TGC)」がプロデュースする「TGC FES YAMANASHI 2022」を、富士河口湖町で10月22日に開催します。このイベントは、県内外の若い女性に本県の魅力を発信しようと、県がTGCの「地方創生プロジェクト」を活用して開催するもので、地方の自然を生かした野外フェスティバル形式での開催は、同プロジェクト史上初の試みです。

宝箱を意味する「Treasure Box」をテーマに、人気モデルなどが本県の地場産業である織物やジュエリーを着用し登場するファッションショーや、県産酒や県産食材を活用した料理、キャンプ体験等を楽しむアウトドアフェスなどが予定されています。

県は、これをきっかけに本県の伝統産業や食、自然などの魅力を感じ山梨を訪れる若い女性が増えるよう準備を進めていきます。



開催発表会見でイベントのイメージ画像を発表する
長崎知事とTGCの運営会社「W TOKYO」の村上範義社長

NEWS アメリカ合衆国アイオワ州・カリフォルニア州を訪問

本県とアイオワ州は昭和35(1960)年の姉妹都市締結以来、農業をはじめスポーツ、教育など幅広い分野で交流を深めています。8月、県は同州に高校生を含む訪問団を派遣し、姉妹県州締結60周年を記念した覚書をキム・レイノルズ州知事と締結しました。これにより、農業分野で共同研究や人材交流を進めるとともに、ICT(情報通信技術)を活用した青少年同士の交流の機会を増やし、今後も協力関係を深めていくこととしました。さらに、アイオワ州立大学動物科学科のジェイソン・ロス学科長や獣医・畜産分野の教授らと意見交換し、県のブランド豚「甲州富士桜ポーク」の種の保存を可能とする受精卵凍結技術の確立や獣医師の交流などを共に進めていくことで一致しました。



覚書締結後に議事堂でキム・レイノルズ州知事らと記念撮影

カリフォルニア州では、現地の富裕層向け旅行会社などを招き「やまなし魅力説明会」を開催しました。参加者に県産酒と和食のペアリングを楽しんでもらいながら、本県が誇る観光資源や文化資源、さらには先進的な取り組みである「やまなしグリーン・ゾーン プレミアム」やP2Gシステムなどを紹介しました。また、アメリカから輸入解禁要請を受けているモモと輸入が解禁されたスモモについて、JA職員と共に、同州のカレン・ロス食品農業省長官や生産者団体の代表者らとの意見交換、生産・流通・販売状況などの調査を行いました。9月にも現地調査を行い、必要な産地強化対策を実施していくこととしています。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



「医療的ケア児支援センター」を開設し支援を強化

人工呼吸器の管理やたんの吸引などの医療的ケアを必要とする方やご家族の一元的な相談窓口として、8月、国立病院機構甲府病院内に「医療的ケア児支援センター」を開所しました。

センターには医師や看護師、保育士の資格を持つ支援員が常駐。相談内容に応じて医療や福祉、教育など複数の分野にまたがる支援を関係機関と調整し、必要な医療や障害福祉サービスにつなげます。また、医療的ケアに携わる人材の育成や情報発信に取り組みます。

医療的ケアを必要とする方が地域で安心して生活できるよう、相談体制の強化やセンターを中心としたあらゆる機関の連携を進めていきます。



医療的ケア児支援センターの看板を披露



峡南地域の発展につなげる「峡南地域ネクスト共創会議」を開催

県と峡南地域の5町が連携して、共通課題の解決などに向けて話し合う「峡南地域ネクスト共創会議」を、8月に身延町で開催しました。初回となったこの日は、長崎知事と峡南5町の首長が出席し「観光」「公共交通網の整備」「富士川水系の河川環境保全」「山村留学の受け入れ」などをテーマに意見を交わしました。

長崎知事は「中部横断自動車道の全線開通からもうすぐ1年がたつ。企業立地や人の往来・交流の活発化など、沿線地域には強い追い風が吹いている。この会議を土台にして峡南地域の飛躍を成し遂げたい」と述べました。また、出席者からは「峡南5町が連携して交通網を整備し、地域の足の確保や広域的な周遊につなげていくことが必要」「山村留学などを活用して、移住者や関係人口の増加につなげたい」などの意見が出されました。今後も課題ごとに議論を深め、解決策などを検討していく予定です。



会議に出席した峡南5町の首長と長崎知事



やまなしモデルP2Gシステム 県外導入第1号 大成建設株式会社と基本合意書を締結

県は8月に大成建設株式会社（東京都新宿区）と建設部材工場の脱炭素化などに係る基本合意書を締結しました。県が民間企業と技術開発を進める「やまなしモデルP2Gシステム」を建設部材工場に導入し、そこで製造したグリーン水素を燃やして得た熱を利用することで、工場の脱炭素化を図るものです。来年秋ごろまでに実証運転を始める予定で、本県のP2Gシステムが県外で導入されるのは初となります。また、工場で製造した水素を地域内の工場などで熱エネルギーとして活用する仕組みも併せて検討します。

合意書締結式で長崎知事は「今後も水素エネルギー分野の先頭に立ち、脱炭素化の実現に向けてやまなしモデルP2Gシステムのさまざまな可能性を追求していきます」と述べました。



県庁で行われた合意書締結式

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



商品提供:ヨダファーム

「濃厚芳醇とろけるトマトケチャップ」抽選で5名の方に!

「美味しい甲斐開発プロジェクト」については、
県ホームページをご覧ください。

美味しい甲斐



アンケートに答えて応募しよう!

次の①～⑥と【アンケートの回答】をご記入いただき、はがき、
電子メール、ファクスのいずれかの方法でご応募ください。
①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス(ある方)

●アンケート

問1:今号の中で最も関心を持った内容とその理由は?
問2:中部横断自動車道開通で実感している効果は?
※いただいたご意見の一部を紹介させていただくことがあります。

●応募先

山梨県広報グループ「ふれあい読者プレゼント」係
はがき:〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
電子メール:koucho@pref.yamanashi.lg.jp
(件名に「ふれあい読者プレゼント」と入力)
ファクス:055-223-1525

●締め切り

10月31日(月)(当日消印有効)

賞品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。個人情報や賞品の
発送のほか、県からのお知らせなどのために、使用させていただくことがあります。

多言語翻訳や音声読み上げに対応したデジタルブック

カタログポケット



「ふれあい」の誌面をパソコン、スマートフォン、タブレットでそのまま
ご覧いただけます。

《FUREAI》雑誌の电子版可以在智能手机或者平板电脑客户端浏览。

(中国語・簡)

You can now read pages from Fureai directly on your
smartphone, tablet, and other devices. (英語)

スマートフォンで「ふれあい」をもっと身近に

スマートフォン専用サイト



「ふれあい」の誌面をスマートフォン専用の
ウェブサイトでもご覧いただけます。言語切
り替えが可能で、ページが縦と横にスク
ロール表示されるので、スマートフォンで読
みやすくなっています。



県政情報発信中!

県ホームページ



Facebook



Twitter



YouTube



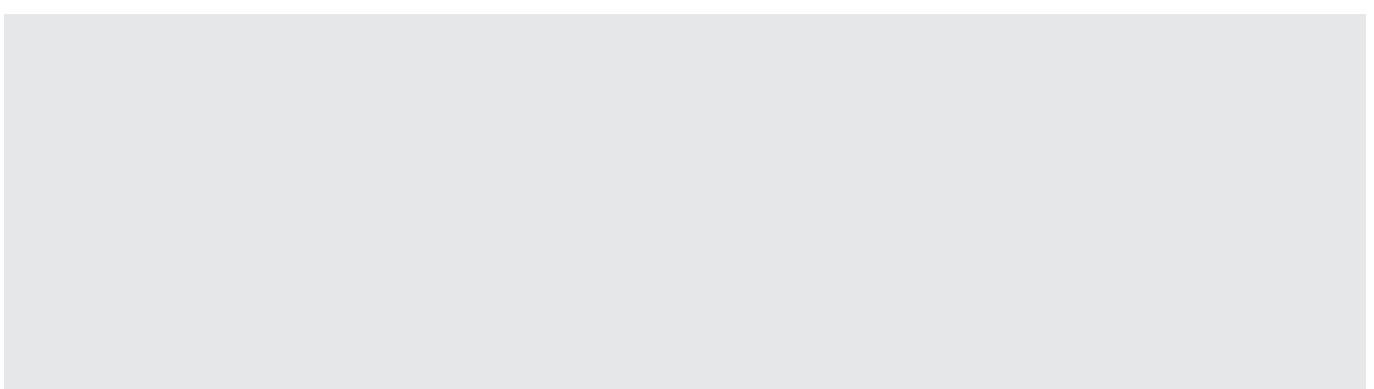
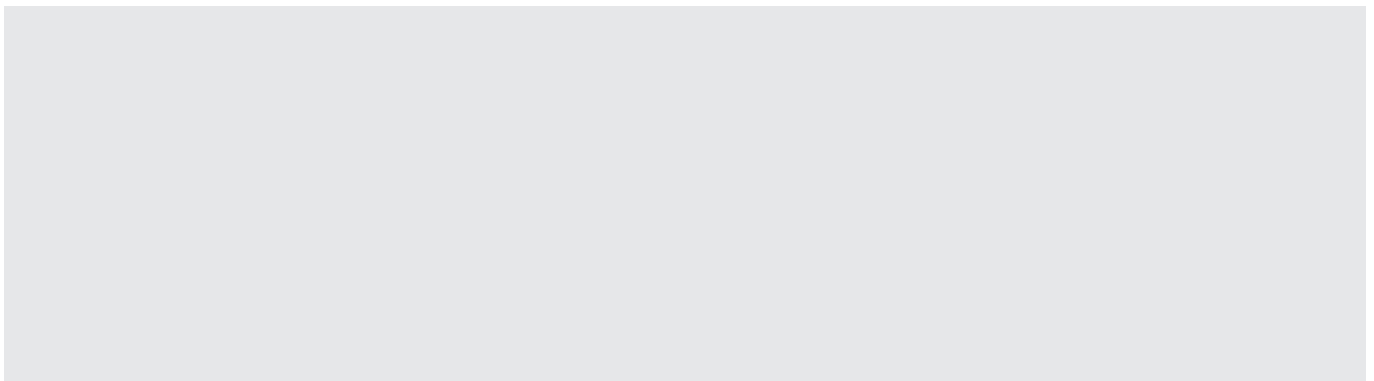
広報番組



広報誌



ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



やまなしの県有林は、森林管理
認証を取得し、世界的な基準で
豊かな森づくりを行っています。



やまなし森の印刷紙
この印刷紙には、FSC®森林管理
認証を取得した山梨県有林から
の木材が使用されています。